

# 信州大学

# 今昔

おかし

いま

～ 信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業関連イベント～

信州大学中央図書館  
1階展示コーナー

◎開催日などはセンターWEBページをご覧ください



信州大学設立時の行政文書  
昭和24(1949)年 大学本部蔵

信州大学は、戦前に設立された前身校の伝統を引き継ぎ、1949年6月1日に開学しました。本展では、創立当初の姿がわかる資料や写真を展示し、現在までの大学の移り変わりなども紹介します。



開学記念写真 昭和25(1950)年 中央図書館蔵

大学史資料センター特任教授 福島正樹

## 「信州大学」誕生秘話

1949年(昭和24)5月31日、信州大学は、国立の新制大学69校の一つとして、長野県下の高等教育機関7校を集めて発足しました。文部省は「1県1大学」、名称は原則として都道府県名を用いる方針を示しました。これに従えば、「長野大学」とすべきところ、本学は日本で唯一旧国名(信州)信濃国)を冠した大学名となりました。

「信州」が採用された経緯を調べてみると、実は「信州大学」の呼称は明治時代後期にまでさかのぼります。1899年(明治32)、長野県に高等学校を誘致したいという運動が起り、1919年(大正8)に松本高等学校の開校が実現しますが、この運動の中で、長野県に「信州大学」を設置したいという動きが生まれました。1915年(大正4)、長野県の教員で組織された教育団体「信濃教育会」の機関誌『信濃教育』の論文にも「信州大学」の設置を要望するという主張が表れ、以後戦前を通じて大学の名は「信州大学」とされてきたのです。

「長野」ではなく、なぜ「信州」か。それは「長野」が信濃国全体を表す地名としては県民に浸透しなかつたという点があります。また、「長野」の名は、1871年(明治4)に県を設置した際、県庁を長野村(現長野市長野)に設置したこと由来します。県の範囲は、現在の長野県北部と東部で、中部と南部及び飛騨地方は筑摩県とされ、信濃国は2つに分かれていました。1876年(明治9)、長野県と筑摩県は合併し、現在の「長野県」が誕生しましたが、多くの県民、特に中南信の人々にとって「長野」は属意識の薄い地名でした。明治30年代、信濃教育会は全県を対象とした教育活動の「スローガン」として「信州教育」「信濃教育」を掲げるようになり、信州全体をまとめあげる地域愛を歌い込んだ唱歌「信濃国(しなののくに)」も生まれました。明治30年代以降、長野県民全員の郷土意識をかなえる「信州」は無くしてはならないものになり、それが1949年(昭和24)の「信州」大学の誕生へと繋がっていったのです。

## 大県 信濃 教育

### 本縣教育の精神と信州大學

第三百四十九號

編輯主任

### 信州大學を設立

本縣教育上如何なる種類の學校を根本問題は、本縣人の氣質性向を勿論

本縣の山岳の雄大な蒼空のやうに私なく

本縣人を其の内に思ふ。本縣人に其の内に

本縣人を其の内に思ふ。本縣人に其の内に

本縣人の性向、他府縣との交際

## 唱歌「信濃国」



浅井列書「信濃国」大正6年(1917) 教育学部図書館蔵

信州大学教育学部の前身校である長野県師範学校の教員であった浅井列(作詞)と北村季晴(作曲)による「信濃国」は、1900年(明治33)に発表され、師範学校から巣立った教員たちが県内各地の学校で教え伝えたことにより、広く普及しました。歌詞には、長野県各地の地理、風土、著名人物などがパラスよく散りばめられています。長野県民に愛され、1968年(昭和43)に県歌に制定されました。

## 県内に点在するキャンパス



長野県は南北に長く、主な平地が山々で隔てられており、歴史、文化、気候風土、人々の気質などが異なる4つの地域(北信、東信、南信、中信)に大きく区分されています。信州大学を構成する8学部は、それぞれの前身校の所在する4つの地域にある5つのキャンパスに分かれて点在しています。個性あふれる各キャンパスの特色を生かした大学名の冠として、「信州」はふさわしいものといえるでしょう。

みなさん、はじめまして。

本展を企画した「信州大学大学史資料センター」の福島です。当センターは2019年に本学が70周年を迎えるにあたって、2017年4月に大学附属図書館のもとに設置された組織です。本展示でもご覧いただいたように本学は100年以上に渡る長い歴史を有しています。しかし、この歴史を明らかにする重要な資料が現在散逸の危機にあります。そこで当センターは、各学部その同窓会・校友会などと連携し、資料の収集・整理・保存をすすめ、公開・展示等を行い、本学の歴史を将来に伝える役割を担っています。今後はそれらをデジタル化し、インターネット上で公開することも予定しています。このように、資料の面から信州大学の歴史を守っています。みなさまからの情報提供もお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします!

大学史資料センターとは?



# 「信州大学今昔」展示趣旨

信州大学は、戦前に設立された前身校7校の伝統を引き継ぎ、1949年に発足しました。2019年は信州大学設立70周年の年で、同時にこの年は旧制松本高等学校の100周年にもあたっています。本展は大学史資料センターによる企画展として、信州大学の成り立ちを、各学部が所蔵する特色ある資料を通じて概観したいと思います。

信州大学とは  
松本キャンパス  
上田キャンパス

昭和24年(1949)6月1日、松本高等学校・松本医科大学・長野師範学校・長野青年師範学校・長野工業専門学校・県立農林専門学校・上田繊維専門学校を母体として、信州大学が誕生しました。本展示では、信州大学の創設に関する資料をはじめ、5つのキャンパスごとに、8つの学部の「沿革」と貴重な「逸品」をご紹介します、信州大学の「昔」から「今」までの歩みをご覧ください。

## 文部省学校教育局長通知「新制国立大学設置について」

昭和24年(1949)5月31日 大学本部 蔵

昭和23年(1948)7月30日付で申請していた信州大学設置について、大学設置委員会(文部省)からの答申内容を伝達したものです。昭和24年度より、松本市大字桐109の地に本部を置き、6学部13学科編成で開設する旨が通知された。また、設置条件として、校舎・施設の拡充整備、教員(特に数学)の充実などが指摘されている。



信州大学  
創設に関する  
逸品

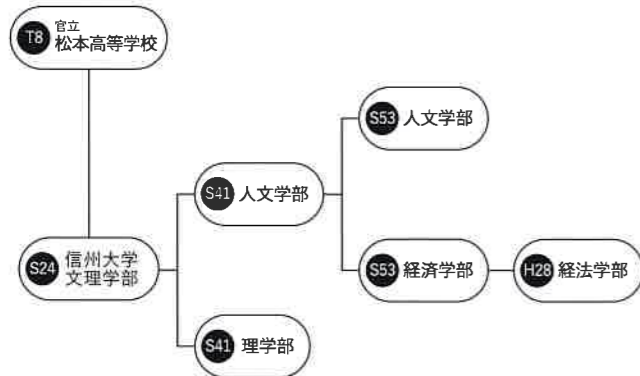
現在、松本キャンパスには、医学部・人文学部・経法学部・理学部があります。この地には、旧陸軍歩兵第五十連隊が置かれていました。昭和19年(1944)、松本医学専門学校が設置され、戦後に連隊跡地に移転しました。その後、松本医科大学を経て、昭和24年(1949)の信州大学設立時に医学部となりました。あがたの森にあった旧制松本高等学校は、信州大学設立時に文理学部となりました。文理学部はあがたの森をキャンパスとし、人文学部と理学部に改組されたのち、現在地に移転しました。昭和53年(1978)、人文学部経済学科は経済学部(現・経法学部)となり、現在に至ります。

## 人文学部 Faculty of Arts

## 経法学部 Faculty of Economics and Law

## 理学部 Faculty of Science

### 人文、経法、理学部 沿革



## 落成記念写真帖

大正11年(1922)10月 中央図書館 蔵

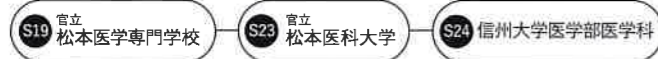
大正11年(1922)、旧制松本高等学校の校舎落成を記念して作られた写真アルバム。巻頭には、松本中学校(現:松本深志高等学校)の校舎を間借りしていた開校当初からの念願であった校舎新築への喜びが記されている。1枚目には「日本アルプス」の写真が収められており、信州全体をキャンパスとみなしていたことがうかがえる。



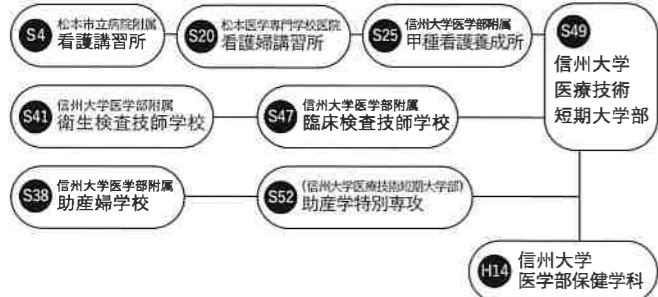
文・経・理  
これ  
逸品

## 医学部 School of Medicine

### 医学科 沿革



### 保健学科 沿革



## 官舎之記

昭和22年(1947)1月5日 医学部 蔵

信州大学の設立に尽力し、初代医学部長をつとめた竹内松次郎(雅号:十松)直筆の書。医学部の前身である松本医学専門学校の初代校長として招かれ、構内に存在した官舎(校長宿舎)への入居に際して詠んだ漢詩。旧陸軍歩兵第五十連隊の駐屯地であった頃より有名な桜の様子とともに、無事に入居の済んだ安堵感を詠んでいる。

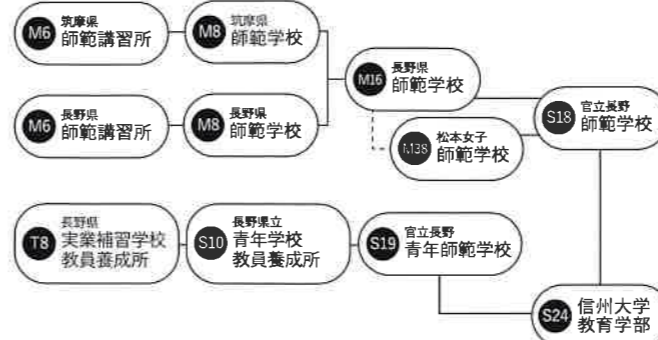


医学部  
これ  
逸品

現在、長野(教育)キャンパスには教育学部があります。この地には、明治41年(1908)まで、「長野県庁」と「長野県師範学校」が隣接していました。同年5月~6月、立て続けに起こった火災によりいずれも焼失し、師範学校は再建されましたが、県庁は移転することとなります。その後、師範学校は昭和24年(1949)の信州大学設立時に「教育学部」となり、現在に至ります。

## 教育学部 Faculty of Education

### 教育学部 沿革



## 長野県師範学校学友会蔵書

明治初期 教育学部図書館 蔵



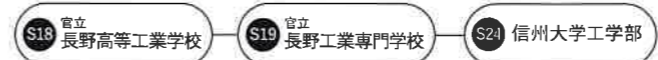
長野県師範学校から教育学部へと引き継がれた約18,000冊のうち、「学友会」が収集したもの。学生自らが資金を出し合って購入したこれらの書籍には、「長野県師範学校学友会図書蔵書印」などの蔵書印がみられ、一部が赤く塗られているのが特徴。教育学をはじめ、言語・歴史・地理・哲学・美術など、幅広い書籍がある。約1,000冊。

教育学部  
これ  
逸品

現在、長野(工学)キャンパスには工学部があります。かつてこの地には、「長野工業試験場」がありました。昭和19年(1944)、試験場の移転に伴い、長野市岡田にあった「長野高等工業学校」(昭和18年設立)は、「長野工業専門学校」に改組・移転し、試験場建物を校舎としました。その後、工業専門学校は昭和24年(1949)の信州大学設立時に「工学部」となり、現在に至ります。

## 工学部 Faculty of Engineering

### 工学部 沿革



## 信州大学工学部設置申請書

昭和23年(1948) 工学部 蔵



信州大学工学部の新設時に作成された文書一式。設置要綱や学則、校地の図面をはじめ、講座の構成や履修方法等、現在の工学部の礎となる規範が記されている。特に設置要綱からは、「工業に関する地方的学術の中心」として、信州の地域特性をふまえて社会の発展に寄与する自負がうかがえる。

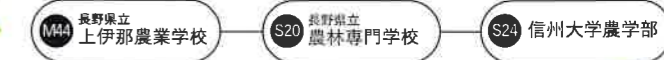
工学部  
これ  
逸品

伊那キャンパス

現在、伊那キャンパスには農学部があります。農学部の前身である「長野県立農林専門学校」は、昭和20年(1945)、「上伊那農業学校」(現・上伊那農業高等学校)に併設されました。上伊那農業学校の寮の隣接地に建てられた農林専門学校は、昭和22年(1947)、現在農学部がある地へと移転します。その後、昭和24年(1949)の信州大学設立時に「農学部」となり、現在に至ります。

## 農学部 Faculty of Agriculture

### 農学部 沿革



## 安西流馬医巻物

宝永7年(1710) 農学部図書館 蔵

仏教と陰陽五行説を基本思想とした馬医学書。天正7年(1579)、馬医学に通じた故実家の安西播磨守によって著されたものの写本。入門者のために、馬体解剖図、季節による馬の病気、針治療法、馬医学修得の心構えなどが記されている。昭和49年(1974)、駒ヶ根市の笹古家から信州大学農学部へ寄贈された。

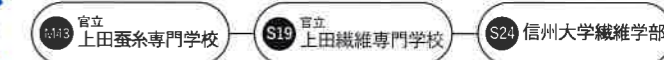


農学部  
これ  
逸品

現在、上田キャンパスには繊維学部があります。明治43年(1910)、この地に官立の「上田蚕糸専門学校」が設立されました。元々蚕糸業が盛んな土地であることや、地域の誘致活動により、上田の地が選ばれました。その後、昭和19年(1944)に「上田繊維専門学校」と改称し、昭和24年(1949)の信州大学設立時に「繊維学部」となり、現在に至ります。

## 繊維学部 Faculty of Textile Science and Technology

### 繊維学部 沿革



## 開校式記念繪葉書

大正2年(1913) 繊維学部 蔵

上田蚕糸専門学校(繊維学部の前身)の開校式を記念して作られた絵葉書。上の絵葉書では、手前に桑畑が広がる様子と、中央には製糸工場の煙突が描かれ、養蚕や製糸に関する実習を行っていた開校当時の様子がかがえる。右端には、現在も繊維学部資料館として活用されている貯繭庫(登録有形文化財)が描かれている。



繊維学部  
これ  
逸品

## 信州大学のこれから

本展示では、信州大学の「今」と「昔」を紹介してきました。これからも、学生や教職員はもちろん、卒業生や保護者の皆様、地域の皆様、信州大学を応援して下さる多くの方々と共に、信州大学の歴史を作り上げていきます。

長野(教育)キャンパス

長野(工学)キャンパス